

訓子府消防の歩み

- ・大正2年(1913年) 草野製軸訓子府工場に私設消防組編成
- ・大正4年(1915年) 私設訓子府消防組編成 火災予防組合設立
- ・大正5年(1916年) 公設訓子府消防組設置
- ・昭和9年(1934年) 火の見望楼とサイレンを設置、時報にも利用
- ・昭和14年(1939年) 消防組と訓子府村防護団統合し警防団設立
- ・昭和15年(1940年) 現在地に警防団本部と本部事務所建設
- ・昭和22年(1947年) 警防団解散し訓子府消防団を設置 消防後援会発足
- ・昭和23年(1948年) 自治体消防制度発足
- ・昭和30年(1955年) 日出地区に私設消防隊発足 北見支部管内市町村の応援協定締結
- ・昭和31年(1956年) 日出地区私設消防隊公設化、日出班に
- ・昭和35年(1960年) 消防団常備員配置
- ・昭和41年(1966年) 日出班を訓子府消防団第4部に改称
- ・昭和43年(1968年) 消防庁舎と待機宿舎新築
- ・昭和47年(1972年) 北見地区消防組合発足 消防団名称を北見地区消防組合訓子府消防団と改称、消防署訓子府支署設置
- ・昭和57年(1982年) 消防団機構に分団制導入
- ・昭和60年(1985年) 日出分団車庫新築
- ・平成2年(1990年) 支署組織に救急係設け救急車配備、救急業務を開始
- ・平成4年(1992年) 訓子府消防初の完全無火災で表彰
- ・平成7年(1995年) 訓子府消防団女子部発足
- ・平成8年(1996年) 幼年消防クラブ発足
- ・平成9年(1997年) 消防団3分団制に改正
- ・平成10年(1998年) 消防団特科隊結成 消防支署に無線遠隔サイレン吹鳴装置設置
- ・平成12年(2000年) 新年観閲式を出初式に
- ・平成13年(2001年) 高規格救急自動車配備
- ・平成20年(2008年) 消防通信一元化
- ・平成21年(2009年) 消防庁舎耐震改修工事
- ・平成24年(2012年) 消防庁長官表彰(表彰旗)を受章
- ・平成26年(2014年) 消防救急無線デジタル化

訓子府消防 100年



7月に行われた記念事業の「消防ランド」(上)と津野町での消防演習参加風景(下)



記念事業多彩に

消防団では、消防100年記念5か年計画として平成23年度から記念誌発刊に向けた座談会や全道消防操法大会出場、消防団員の組織充実強化などを進めている中で、記念事業実行委員会も組織され、平成26年度から平成27年度までを記念事業実施期間として、「消防100年」を祝っています。

今年7月19日には「消防ランド」を開催、7月27日には、姉妹町・高知県津野町に消防団員を派遣、津野消防団連合演習に参加し、消防として初めての交流が行われました。

今後は、来年2月に記念式典・祝賀会を開催、来年6月末ごろに訓子府町で予定している1市4町8消防団の北見分会連合消防演習も記念事業に位置づけています。



住民の生命・財産を守り続け

住民の生命・財産を守り続け 100年。
大正4年に私設の訓子府消防組が創設されたことを「訓子府消防」の始まりとし、平成27年に100年を迎えます。「訓子府消防100年記念事業実行委員会」は、来年2月に記念式典を行います。平成26年度から記念事業を実施しており、訓子府町全体で節目を祝う取り組みを進めています。

来年2月に記念式典を予定

訓子府消防の歴史は、3ページの歩みのおりですが、大正2年に草野製軸訓子府工場が手押しポンプ1台を備え、従業員に訓練して火災などに備えたのが、前身とされています。

その後、大正4年に西製軸工場を中心に「私設訓子府消防組」が創設されたことを訓子府消防の起源としています。

大正5年には公設の「訓子府消防組」設置、昭和14年に消防組と訓子府防護団が統合し、「警防団」が組織されました。

昭和22年に消防団令の公布・施行に伴い、訓子府消防団が誕生し、翌昭和23年には、自治体消防制度が確立され、自治体消防の本格的なスタートが切られました。

昭和47年には、消防救急業務の効率化のため、北見市、置戸町、訓子府町、端野町の1市3町(現在は、北見、置戸、訓子府の1市2町)による北見地区消防組合が設立され、町内には、組合の「消防署訓子府支署」が設置され、同時に消防団が「北見地区消防組合訓子府消防団」と改称されました。

昭和47年以降現在までは、救急業務の開始、消防団女子部の発足、幼年消防クラブ発足、消防通信一元化、消防庁舎耐震改修工事、消防救急無線デジタル化などの整備を進め、町民の安全・安心に努めています。

大正4年 私設消防組が始まり

